

《担当者名》志水 幸 koh@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

社会福祉と医療の連携の必要性が強調されている昨今、社会福祉をめぐる基本的な事項について体系的に学習する。

【学修目標】

1. 私たちの生活と社会福祉・社会保障について理解することができる。
2. 生活者の視点を重視しながら、社会福祉と医療の連携の在り方について理解することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	暮らしと社会福祉・社会保障	社会保障や社会福祉の定義、その範囲や法体系予算や規模などについて理解する。 生活と社会福祉との関わりが理解できる。 地域づくりが社会福祉にとっても重要なことが理解できる。 国際的な社会福祉を考えることの必要性が理解できる。	志水
2	社会保障・社会福祉の歴史と現代の課題	社会福祉の理念、概念を理解する。 社会保障制度がどのように作られ、現在の姿になっているのか、社会福祉や社会保険の動向も含め、わが国の社会保障制度の歴史を学ぶ。また先進国における社会保障制度の発展の歴史を概観する。 社会福祉をめぐる新たな課題について理解する。	志水
3	社会福祉のしくみと社会資源	社会福祉の担い手の種類と役割を理解する。 社会福祉と保健の連動の場と重要性を理解する。看護職として必要な他の専門職と連携をとることができる。 社会福祉実践の目的と概念を学ぶ。 社会福祉実践の体系と諸技術を学ぶ。 社会資源の意味とその活用方法について学ぶ。 社会資源活用のための情報マネジメントを学ぶ。	志水
4	地域福祉の推進	我が国において地域福祉が社会の中心的な課題として取り上げられた経緯を理解する。 地域福祉についての概念の歴史的な変遷について理解する。 地域福祉の計画的推進について理解する。 地域福祉計画施策プロセスを理解する。 地域福祉計画の原則について理解する。 地域福祉の担い手とその役割について理解する。 保健・医療・福祉の連携の国内外の動向について考察する。	志水
5	ライフサイクルと社会福祉 子ども・家庭と福祉	子どもの権利について学ぶ。 子ども・家庭福祉の実施体制について理解する。	志水
6	ライフサイクルと社会福祉 子ども・家庭と福祉	子育て支援、児童虐待に関する施策の背景と内容を理解する。	志水
7	ライフサイクルと社会福祉 障がい者と福祉	ノーマライゼーション、リハビリテーションについて理解する。 障がい者福祉の法律と施策の内容を学ぶ。 障がい者ケアマネジメントの考え方と実際について理解する。	志水
8	ライフサイクルと社会福祉 高齢者と福祉	高齢者保健福祉に関する制度やサービスの理念と内容を理解する。	志水
9	生活保護	生活保護における生活保障の仕組みと内容について理解できる。	志水

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		生活保護の種類・範囲・方法が理解できる。 生活保護基準が理解できる。 生活保護に関する費用が理解できる。 保護施設の種類と内容が理解できる。 被保護者の権利義務と不服申し立てが理解できる。	
10	社会保障（社会保険）制度 年金制度	公的年金制度の種類を整理する。 公的年金制度の概要を理解する。 保険料の納付・年金給付の仕組みについて理解する。 年金制度の今後の課題について考察する。	志水
11	社会保障（社会保険）制度 医療保険制度	日本の医療保険制度の体系を理解する。 制度の概要について理解する。 保険診療と診療報酬の関係について学ぶ。 医療保険制度の今後の課題について考察する。	志水
12	社会保障（社会保険）制度 介護保険制度	介護保険が創設された社会的背景を理解する。 介護保険制度の仕組みについて整理をする。 介護保険制度の今後の課題について考察する。	志水
13	社会保障（社会保険）制度 雇用保険制度、労災保険制度	雇用保険制度が必要とされる社会的背景について考察する。 雇用保険制度の概要について理解する。 雇用保険制度の今後の課題について考察する。 労働災害保険の概要を理解する。	志水
14	生活と福祉 障害を持ちながら地域で生活をするということ	暮らしに密着した地域社会とは何かを知る。 地域における福祉と保健・医療の連携について考える。 障がい者が介助を獲得していくことの意味を考える。	志水
15	事例に学ぶ・まとめ	多問題家族の事例を通し多職種の連携や地域社会との共同について学ぶ。	志水

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験により、100%評価する。

【教科書】

「新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 社会福祉」メジカルフレンド社

【備考】

受講にあたり、座席指定する。

【学修の準備】

1. 日頃からニュース等を見聞きし、社会で起きている事象について関心を持つよう心がけ、それぞれの事象がどのように社会生活をおくる人間に関連しているのか考えられるようにすること。
2. 予習は、教科書をよく読み、基本的な知識を習得する。
3. 復習は、教科書、プリントなどを活用し、学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4,1,3